



図書館だより

ほくと 102号

八王子北高等学校図書館

2026年 9月



文化祭、お疲れさまでした！楽しめましたか？

賑やかな雰囲気が図書館にも伝わってきました。

行事が終わってホッと一息。

少しゆっくりしたくなったら、ぜひ図書館を使ってくださいね。

追悼展示・東野圭吾さん

「ガリレオ」シリーズ他100冊以上のミステリー作品を生み出し、メディア化も多数された名作家。

あまりに早すぎる訃報に、驚いた方も多いのでは。

雑誌前のスペースで、追悼展示を行っています。

『容疑者Xの献身』



天才物理学者・湯川学の前に立ちはだかるのは、旧友の天才数学者。綿密に計算されたトリックの先には、想像を絶する「献身」の姿があった。

東野圭吾の代名詞とも言える直木賞受賞作。東野圭吾を最初に読むならこれからと推したい一作。

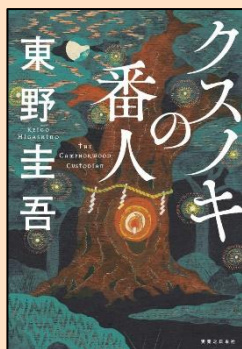
『白鳥とコウモリ』



ある事件を機に、一人の男が33年前の未解決事件の全ての罪を自白した。しかし、加害者の息子と被害者の娘は違和感を覚え、事件の真相を調べ始める。二人が辿り着いた巨大な秘密・真実とは。

9月4日ロードショー。東野圭吾の感動作。

『クスノキの番人』



伯母の千舟の要請で月郷神社のクスノキの「番人」になった玲斗。特別な「祈念」をする人々と関わる中でクスノキの大切な力や、千舟の想いを知っていく。

東野圭吾作品の中でもミステリ要素が薄く、じんわりと温かな読後感を楽しめます。

『流星の絆』



幼い頃に両親を殺された3兄妹。必ず仇を取ると誓った14年後、詐欺師になった彼らは、犯人の息子と思われる人物と知り合う。復讐計画を立てるも、予想外の事態が…。

中盤の緊迫感ある展開から、最後は涙が出る、まさに「絆」の物語。

漫画コーナーの並び方が変わりました！

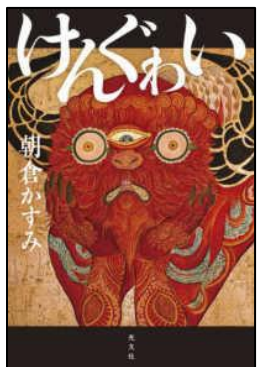
作品のタイトル順

に統一しました！

探しやすくなって、「あれ、このマンガもあったんだ！」なんて新しい発見もあるかも？

新着図書

『けんぐわい』 朝倉 かすみ著



けんぐわいとは、「圏外」の意味。

主人公は天然痘のせいで顔や体にひどい痘痕が残る女性。差別を受けながら自立して立ち上がっていく話。

世間の「枠の外側（圏外）」に追いやられた女性たちがたくましく生きていく姿を描いたストーリー
今年の直木賞、受賞作

『ゾンビ回収婦』 小砂川 チト著



AI の発達によって急激に仕事が奪われていく近未来の社会の話。

AI に仕事を奪われた現実と誰にも認められない仕事を永遠に繰り返し続ける「仮想世界」。そこを往復する中で自分にとっての役割、居場所とは何かを問い掛けている。

『11ミリのふたつ星』 野宮恭一

砥上 裕將著



11 ミリとは人の黒目（角膜）の平均的な大きさのこと

視能訓練士（眼科の医療専門職）の青年を主人公に、見え方に悩みを抱える患者たちと真摯に向き合う姿を描いた温かい医療仕事小説。たった11ミリの小さな窓を通して、人は世界を見ているというメッセージでもある。

『ホルモー燦燦』 万城目学著



「ホルモー」とは京都の大学生が「オニ」を操って戦う架空の対戦競技のこと。

社会に出て現実の厳しさに直面していた元学生たちがホルモーを通して熱量を取り戻していく。その様子に笑いと感動が残るのでは。

『プレゼント』 伊坂幸太郎共著



現代を代表する7人の作家が「夏」をテーマに書いた短編集でとても読みやすい。

タイトルのプレゼントとは、これから小説を読み始める一歩踏み出す人へ贈る、飛び切りの面白さを詰め込んだ一冊という意味が込められている。

『美しくない青春』 小手鞠るい著



本作では「美しい言葉や文学、愛する人との時間など、人の心を豊かにする「美しさ」とそれらを軍国主義や暴力で容赦なく奪っていく「戦争の悲惨さ・理不尽さ」が対比的に表現されている。

戦争によって美しくない青春を虐げられた叫びでもある。

『わけがわかる世界史』 社会専科著



世界史の暗記に悩む皆さんへ朗報です！

歴史上の出来事がなぜ起こったのか」という理由に焦点を当てた学習書。

そこには人間関係や欲望、当時の社会構造などの本質がわかりやすく明かされていて、なかなか興味深い内容になっている。

『暗夜に君と星をたどる』 木江恭著



主人公の少女の母親がある日、事故死する。その母親は本音をあまり語っていなかったが、実は架空の世界を舞台にしたおとぎ話を書き残していた。

その作中作を読み解くミステリー要素の中で、母親の生前隠していた苦悩や家族関係が浮き彫りになってくる連作短編。